

[378]九州大学大型計算機センターニュース :
No. 378

<https://doi.org/10.15017/4785614>

出版情報 : 九州大学大型計算機センターニュース. 378, pp.1-7, 1988-07-22. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :



1988. 7. 22

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 378

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

1. 第6回九州大学大型計算機センター計算機科学研究集会発表者募集について … 1
2. F7740 ラボステーションによるAD変換サービスについて …… 2
3. プロジェクト情報管理システムTRACEⅢの公開について …… 3
4. 旧SASコマンドの廃止について …… 4
5. データベースシステムGENASのデータの更新について …… 4
6. GSF(ビジネスグラフ処理及び図形処理支援パッケージ)のレベルアップに
ついて …… 5
7. 昭和63年度(後期)ライブラリプログラム開発計画募集について …… 5

1. 第6回九州大学大型計算機センター計算機科学研究集会発表者募集について

本センターでは、昨年に引き続き、標記研究集会を下記のように開催します。この研究集会の目的は、センター利用者にとって有益な研究成果あるいは計算機科学への問題提起を含んだ研究の発表と討論の場を提供し、センター利用者計算機科学と研究者との交流の接点をつくることにより、計算機利用技術の向上を図ろうとするものです。この研究集会にセンター利用者の方々の積極的な研究発表をお願い致します。

日 時 昭和63年11月24日(木) 10:30~17:00

場 所 九州大学大型計算機センター多目的講習室(3階)

発表申込み 発表審査のため、発表内容をA4判用紙1枚程度にまとめ、9月12日(月)までに提出してください。このとき、発表者の氏名、所属、電話番号を別紙に記したものを添えてください。

発表審査 申込みいただいた発表内容については、本研究集会の趣旨に沿っているかどうかを審査し、発表していただくかどうかを9月22日(木)までに御連絡します。

発表時間 発表時間については、質疑応答を含め30分を予定していますが、発表件数によって多少調整することがあります。

論文提出 御発表いただいた研究は、九州大学大型計算機センター計算機科学研究報告とし

て昭和64年2月末に発行することになっています。このための論文（カメラ・レディ・フォーム10枚程度）を昭和64年1月31日（火）までに提出していただくことになりますが、その要領は発表決定後お知らせします。

申込み先 〒812 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大型計算機センター 松尾 文 碩
電話 092-641-1101（内線2507）

2. F7740ラボステーションによるAD変換サービスについて

中央計数施設端末分室に設置したF7740ラボステーションによるAD変換サービスを7月25日より開始します。

F7740ラボステーションは実験データの収集と制御及び解析処理を行うことができるワークステーションです。

F7740ラボステーションでAD変換したデータは、ホスト計算機（M780）に転送し、M780側で"ADCONVコマンド"を使用して、データセットに取り込むことができます。

1) AD変換の性能

入力チャネル数 : 最大16チャネル
サンプリングレート : 最高75KHz
サンプリングゲイン : $\pm 1.28V, \pm 2.56V, \pm 5.12V, \pm 10.24V$
記録精度 : 符号 + 11bit

2) 設置場所

中央計数施設端末分室（大型計算機センター6階）

電話 （内線） 5986

詳細はF7740ラボステーションに備え付けの使用手引を参照してください。

なお、F7740ラボステーションによるAD変換のサービス開始に伴い、U200システムによるAD変換サービスは廃止します。

（第一業務掛 電(内)2517）

3. プロジェクト情報管理システム TRACE IIIの公開について

7月4日(月)より標記システムを公開しました。TRACE III (Time, Resource, And Cost Evaluation system III) は、複雑なプロジェクトの計画作成・情報管理を行うソフトウェアです。使用するにあたって、はじめにマスタファイル、処理ファイルを作成します。マスタファイル、処理ファイル創成後メニューからオプションを選択しながらデータ管理、解析、報告書の作成、作図を行います。なお、日本語出力がある場合、バックグラウンドパネルのEXEC文 PARM='ISA(132K)' を PARM='ISA(132K)/JEF' に変更して計算依頼を行ってください。詳細は、参考文献〔1, 2〕を参照してください。

入力形式

コマンド	オペランド
TRACE 3	[INIT] [MASTER (マスタファイル名)] [TRAN (処理ファイル名)]

オペランドの説明

INIT : マスタファイル、処理ファイルを作成する時指定する。
 MASTER : マスタファイル名を指定する。
 TRAN : 処理ファイル名を指定する。

使用例

(下線部は、利用者入力部分)

READY
 TRACE3 INIT

初 期 化 処 理	
処理 ==> 1 システム全体の初期化 2 マスタファイルの初期化 3 処理ファイルの初期化	
PF3 終了	ENTER 実行

READY
 TRACE3 MASTER(マスタファイル名) TRAN(処理ファイル名)
 JAPANESE VERSION OR
 ENGLISH VERSION (J OR E) ==> J

TRACE3 V10L30

プロジェクト情報管理システム

初期 パ ネ ル

オプション ==>

- | | |
|---------------|------------|
| 0 システムオプション設定 | 6 報告書定義 |
| 1 カレンダー作成編集 | 7 報告書更新 |
| 2 資源編集 | 8 階層テーブル定義 |
| 3 ネットワーク作成 | 9 ユティリティ |
| 4 ネットワーク更新 | X 終了 |

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OSIV TRACEⅢ説明書(基礎編)
(70SP-7300-1), 富士通㈱.
2. 計算機マニュアル FACOM OSIV TRACEⅢ説明書(応用編)
(70SP-7310-1), 富士通㈱.

(ライブラリ室 電(内)2508)

4. 旧SASコマンドの廃止について

センターニュースNO.344以来, SASとSAS5 (SASの新バージョン) コマンドの並行利用形態をとりながら, 新バージョンへの移行をすすめてきましたが, 63年 6月30日をもってSASの旧バージョンは廃止となりました. 63年 7月 1日以降は, すべてSASの新バージョンである 'SAS5' コマンドを使用してください. ただし, 'SAS5' コマンドは, 9月 5日より, あらためて 'SAS' コマンドとして運用しますので, その旨ご注意ください.

(ライブラリ室 電(内)2508)

5. データベースシステムGENASのデータの更新について

6月27日(月)にGENAS[1,2]のデータベースを更新しました. データベースを構成する3つのデータは, EMBL核酸塩基配列データがリリース10.0から15.0に, GenBank(核酸塩基配列データ)がリリース48.0から54.0に, NBRF蛋白質アミノ酸配列データがリリース11.0から15.0になりました. それぞれの配列数と塩基またはアミノ酸の総数は次のとおりです.

データ名	リリース	配列数	塩基またはアミノ酸の総数
EMBL核酸塩基配列データ	15.0	8,942	10,984,494
GenBank(核酸塩基配列データ)	54.0	15,465	16,752,872
NBRF蛋白質アミノ酸配列データ	15.0	4,931	1,264,388

参考文献

1. 久原ほか, 核酸塩基配列データベースシステムGENASの使用法(1), 九大大型計算機センター広報, 16, 5, 1983, 497-521.
2. 久原ほか, 核酸塩基配列データベースシステムGENASの使用法(2), 九大大型計算機センター広報, 18, 6, 1985, 533-551.

(データベース室 電(内)2508)

6. GSF (ビジネスグラフ処理及び図形処理支援パッケージ) のレベルアップについて

7月18日(月)に, 標記システムをレベルアップ(V10L41)しました。これに伴い, GPM及びグラフパターンに関して, 以下の機能が追加されています。詳細については, マニュアル[1]を参照してください。

マーカサイズの追加

折れ線グラフ, 棒・折れ線グラフ, 多角形グラフ及び散布図のマーカサイズに一回り小さいサイズを追加した。この機能はDATMAR(データ表示形式のマーカ属性)にSIZE(SMALL)を指定することにより利用できる。

参考文献

1. 計算機マニュアル, FACOM OS IV GSF手引書 V10用(70SP-6200 3-01), 富士通(株)。

(ライブラリ室 電(内)2508)

7. 昭和63年度(後期)ライブラリプログラム開発計画募集について

ライブラリプログラム開発計画募集要領(後述)に基づき, 標記開発計画を下記のとおり募集します。多数の応募を歓迎します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 昭和63年8月27日(土)
3. 応募手続 所定の申請書に必要事項を記入の上, ライブラリ室(内線 2508)まで提出する。
(申請書および募集要領は, ライブラリ室に用意してあります。)

4. 対象課題 a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
 b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発者はなるべく早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとしませんが、これら開発者の義務、開発に係る経費等の事項の詳細については、次項に示す募集要領を参照してください。

ライブラリプログラム開発計画募集要領

1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

ただし、次のような課題については原則として認めない。

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題。
ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバッグのための課題。
iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題。

2. 公募は年2回（前期、後期）とする。申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会（以下、委員会）で審査する。ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前（11月位）までに開発を終了するものとする。

前期締切：2月末日（開発開始は 4月1日予定）

後期締切：8月末日（開発開始は10月1日予定）

採用された課題は、センターニュースで広報する。

3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする。
ii) 利用者のための「利用の手引き」を作成する。これを終了報告書として委員会で審議する。
iii) 開発したプログラムの概要あるいはその使用法をセンター広報に掲載する。

4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする。計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める。
ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること。

5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎（4月～翌年3月）とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する。
ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい。
iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする。

6. その他

- i) 申請書に不明な個所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。
- iii) オンラインマニュアル（計算機に格納され利用可能なマニュアル）を用意することが望ましい。

申請計算時間と予算額

計算時間（分）	60	120	180	240	300	360	420	480	540
予算額（万円）	10	15	20	25	30	35	40	45	50

新しく改訂された募集要領は、前回掲載分（センターニュースNO.336）の項目3.および6.に新たに項目iii）がそれぞれ追加されています。記載の要領にしたがって、どしどし応募してください。

（ライブラリ室 電(内)2508）